

令和 6 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

栽培から加工販売まで差別化を図り事業展開

○氏名又は名称 株式会社 なかひら農場（代表 中平 義則）

○所 在 地 長野県下伊那郡松川町

○出 品 財 経営（リンゴ 6 次産業化）

○受 賞 理 由

・地域の概要

松川町は、長野県南部の南信州地域、伊那谷のほぼ中央に位置し町の中央を天竜川が北から南へ流れ、川の東西に段丘が形成され、傾斜地では、戦後の開墾により、ナシ、リンゴなどの果樹栽培が行われている。昭和 50 年の中央自動車道松川 IC の開通により観光農園が増え、現在も 60 軒以上の観光農園が存在する町である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和 25 年にリンゴ栽培を開始。当初は全量 JA へ出荷をしていたが、昭和 50 年に観光農園を開設した。安定した経営を目指しリンゴジュースなどの加工品の開発、販売を行う運営に移行した。果実の皮と芯以外を無駄なく瓶充填して果実を食べているかの様な果肉入りジュースの商品化により、経営も拡大している。

・受賞者の特色

（１）「本物主義」の加工品と顧客ニーズに応じた商品づくり

リンゴ生産は、地元企業と連携して開発した活力剤や自社工場の加工残渣を堆肥化し、減農薬栽培を行っている。加工部門は他社製品との差別化のため、イタリアのメーカーと機械を共同開発し、果肉入りリンゴジュース以外にも地元産果実や野菜、国内外 100 種類ほどの原料を用いて 40 種類以上のジュースやスムージー等を製造し、自社販売用の他、OEM 生産や加工受託を行っている。OEM 生産等は、全体の 90%以上を占め、工場の稼働率向上にもつながっている。

（２）女性の活躍

労働基準法に準拠する就業規定を整備し、社員の半分以上を占める女性が働きやすい作業環境を整えるため、果樹園にも男女別の水洗トイレやロッカー等を設置しているほか、女性専用の運搬車等を導入している。課長職以上も半分が女性であり、会社の中でも中心的な役割を担っている。

・普及性と今後の発展方向

加工工場を中心に地元の働く場として 40 人を超える雇用を創出。また「果樹農業研修制度」で、就農支援も実施し、研修後の新規就農者には資材面でもサポートするなど地域振興にも貢献している。加工用に地元産果実を積極的に活用することで地域の産地維持につながる取組をするとともに、高齢化や後継者が無く栽培の継続が難しい樹園地については毎年約 1 ha 程度買い受け、樹園地の荒廃防止や団地性の維持に努め、産地の維持に貢献している。